

歴史を敬い 自然と共に生きる。

南大東島内に残る 開拓時代からの先人達の軌跡



◆玉置半右衛門記念碑

南大東島小中学校近くにある島の開拓主である玉置半右衛門の記念碑。開拓当時に玉置事務所を建て、開拓の拠点となりました。



◆海軍棒

佐世保海軍鎮守府の名によって軍艦海門が1892(明治25)年、南大東島を調査しました。その際に、島に「大日本帝国軍艦海門、明治25年8月6日之を建つ」と記した標本を建てました。海軍が建てた棒のある所ということで、開拓者たちはこの辺一帯の海岸を海軍棒と呼ぶようになりました。



◆旧ボイラー小屋(国指定登録文化財)

荷揚げ用クレーンを動かすためのボイラーを置いていた小屋の跡で、2000(平成12)年に国指定登録文化財に指定されました。1924(大正13)年頃の建造で、現在は石壁だけが海に向かって残り、修復が予定されています。



◆上陸記念碑

1900(明治33)年1月23日に第1回の渡島者が初上陸した西港を見下ろすように「上陸記念碑」などの3基の記念碑が建てられています。当初ここには、鳥島爆発記念碑及び沖縄近海で遭難し行方不明となった第1回洋丸船長小島岩松外乗組員の碑として木柱2本が建てられていましたが、1993(昭和5)年3月に江崎龍雄によって碑3基に建て替えられました。



◆南大東村 開拓百周年記念碑

開拓百周年記念式典開催日である2000(平成12)年1月23日、開拓団初上陸した地である西港近くのフロンティアパークに建立され、完成時には村を挙げてお祝いしました。開拓百周年記念式典には秋篠宮殿下と秋篠宮妃殿下がご臨席されました。

◆お地藏様

右端の平たい岩石で囲まれている石の地藏が最も古く、大沢二太夫の妻そいが1910(明治43)年に安置したものです。大沢二太夫夫妻は1900(明治33)年に来島して開拓事業に従事しましたが、1910(明治43)年3月29日、二太夫が病没してしまい、そいは内地へ引き揚げることになりました。引き上げの際、そいが二太夫の畑の真向かいに地藏を安置しました。



◆大東神社

1900(明治33)年、字池之沢の北部権蔵池を正面に見る小高い山腹に天照大御神が奉安されました。境内には無人島当時から樹齢百年を超えるダイウビロウがそびえたつほか、約50種の樹木が生い茂っています。



◆観音様

大東神社の北方、中腹の岩窟内に観音像が安置されています。1926(大正15)年、江崎龍雄の寄進によるもので、仏像自体は聖観音ですが、馬頭観音として家畜の安産を祈願するようになりました。

◆造林記念碑

1929(昭和4)年、境内の一隅に植林事業を記念して建立されました。開拓当初から防風林の重要性にかんがみ、植樹や防風林保護規定等を設けて、樹木の愛護精神を図りました。



◆秋葉神社

字新東の秋葉山にある神社で、秋葉大明神の祠があります。現在は火災防災の神として毎年11月16日を祭礼日とし、各字輪番制で祭事当番にあたり、村内外の代表者や一般の参詣が行われ、参詣者には餅が配られています。



◆金比羅宮

島の開拓者の一人、沖山権蔵が建立し、その後1972(昭和2)年に渡辺重右衛門によりコンクリートに作り替え、讃岐の金毘羅宮から新たに御神符を受けました。島の西側(西港)付近にあり、港湾関係者等を主体に村内の有志が集い、例年10月10日に神式による祭事を行い、航海、港湾荷役漁業の安全を祈願します。



◆国標

1885(明治18)年、明治政府の命を受け船長林鶴松の汽船出雲丸に乗った探検隊が無人島だった大東島に上陸しました。そして、8月29日、南大東島を初めて日本国の領土として宣言し国標を建てました。

